

Ⅲ．柏野学区の職業生活

——その意識と実態——

この章の目的は、われわれの調査に基づいて、柏野学区住民の職業の実態や職業意識の特徴を明らかにすることである。柏野学区は、西陣学区の織元の町・織屋の町という実態やイメージに対して、賃織の町・織手の町としてイメージされているし、また社会的分業上も構造的

にそのように位置付けられてきた。実際、われわれも西陣学区を織元の町、柏野学区を賃織の町と意識し、両学区を調査対象地を選んだ。したがって、ここでは西陣学区や西陣全域と比較しながら、柏野学区の職業生活の特徴をみていきたい。

1. 柏野の職業構成

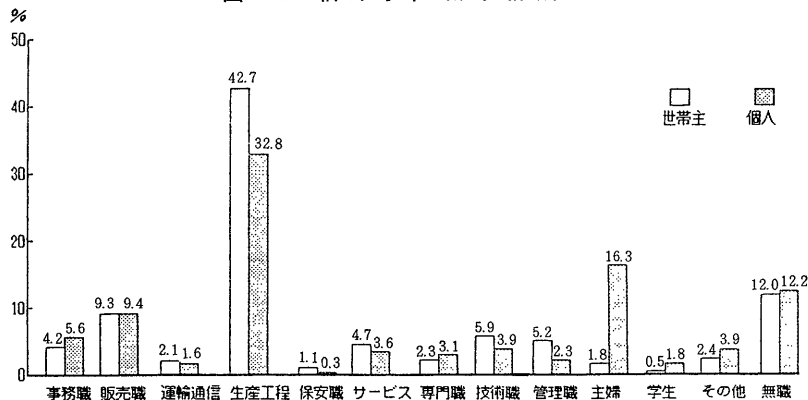
柏野学区は織物の町を反映して、生産工程従事者が圧倒的に多く、世帯主で約43％、個人で約33％である。続く販売職、技術・技能職、管理職はいずれも10％に満たない(図Ⅲ-1参照)。柏野学区の生産工程従事者は、西陣学区の世帯主で約16％、個人で約23％、また西陣全域の個人で約19％という生産工程従事者の比率からみても、その多さが分かる。つまり、世帯主で2倍以上、個人でも約1.5倍になっている。生産工程従事者以外では、世帯主で販売職、技術・技能職、管理、個人では販売職、事務職、技術・技能職と続く。(図Ⅲ-2参照)

しかし、柏野学区で注意しなければならないのは無職の多さである。実に、世帯主で約12％、個人で約13％となっている。これは西陣学

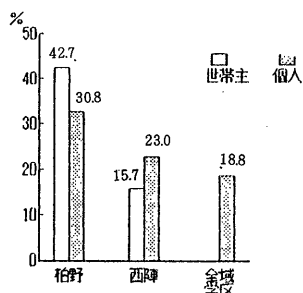
区の世帯主約7％、個人約10％、西陣全域の個人約10％といった無職の比率と較べても柏野学区の無職の多さが目立つ。この無職率の多さの支配的な要因は高齢化である。実際、世帯主でみると、西陣学区は60歳以上が約27％(60代15.6％、70代11.6％)であるのに対して、柏野学区では60歳以上が約35％(60代18.％、70代16.4％)であるからである。

柏野学区における西陣織物関係者は他の地区に較べて多い。つまり、世帯主で約49％、個人で約44％である(図Ⅲ-3参照)。これは西陣学区の西陣織物関係者が世帯主で約30％、個人で約37％および西陣全域の個人で約22％であることと比較しても、柏野学区における西陣織物関係者の多さが指摘される。

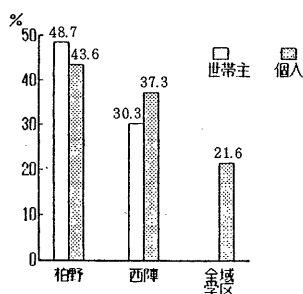
図Ⅲ-1 柏野学区職業構成



図Ⅲ-2 学区別の生産工程従事者の割合

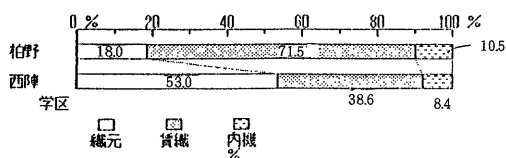


図Ⅲ-3 学区別の西陣織物関係者の割合



また、織元・賃織別でみると柏野学区は賃織が圧倒的に多い。西陣学区が織元約53%, 賃織約39%, 内機約8%であるのに対して、柏野学区は織元約18%, 賃織約72%, 内機約11%である(図Ⅲ-4参照)。つまり、柏野学区は西陣学区に比べて織元は約3分の1、賃織は約2倍である。このことは、一般にいわれている織元の町・西陣学区、賃織の町・柏野学区という表現を裏付けている。

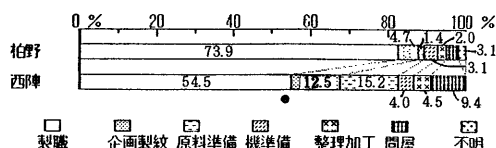
図Ⅲ-4 織元・賃織別の割合
(柏野5次個人, 西陣2次個人)



西陣織物関係者を工程別にみると、柏野学区は製織工程が74%で群を抜いており、他の工程は数%に過ぎない。つまり、西陣学区が製織55%, 企画製紋13%, 原料準備15%, 機準備4%, 整理加工5%, 問屋9%であるのに対して、柏野学区では製織74%, 企画製紋5%, 原料準備1%, 機準備3%, 整理加工2%, 問屋3%である(図Ⅲ-5参照)。西陣学区では製織が過半数を占めるものの企画製紋, 原料準備, 問屋が9~

15%あり柏野学区の3~10倍になっている。このような数字は、西陣織物を支えている「デザイン」部門が西陣学区に属し、柏野学区はそこから指令を受けて織するという作業を行なっていることを示している。これは、一般にいわれる「織屋の西陣」, 「賃織の柏野」の所以である。

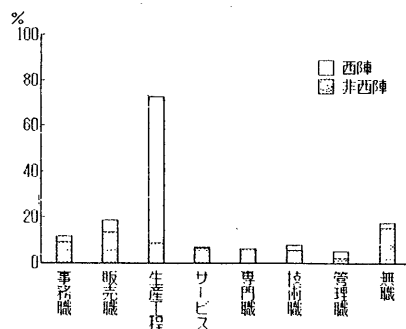
図Ⅲ-5 柏野・西陣別西陣織各工程従事者
(3次・1次)



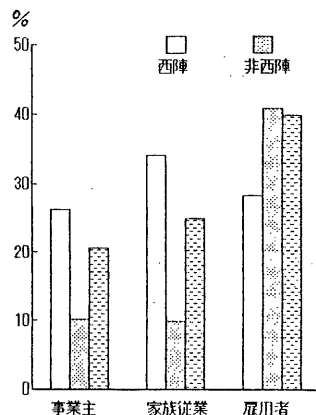
柏野学区の職業の約半分を占める西陣織物関係者は、そのほとんどが生産工程に従事しており(64%), 第2位の販売は5%, 第3位の技術・技能, 管理は3%に過ぎない(図Ⅲ-6参照)。西陣織物非関係者は第1位が販売であり(14%), 生産工程(9%), サービス(7%), 専門(6%)と続く。

西陣織物関係者と西陣織物非関係者の職業の

図Ⅲ-6 西陣・非西陣別職業(5次)



図Ⅲ-7 西陣・非西陣別従業上の地位(5次)



大きな違いは生産工程にみられるが、これは西陣織の仕事そのものの属性に規定されたものであって、社会的に規定されたものでない。

西陣織物関係者には無職が2%と極めて少ない。西陣織物非関係者には実に16%もあるからである。西陣織はいわゆる定年がないので職業提供に役立っているかもしれないが、いきおい高齢化しがちであるとともに、高齢になるまで

働かざるを得ない現状を示しているといえよう。

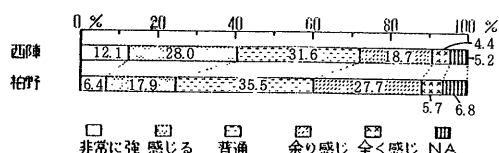
西陣織物関係者の従業上の地位は家族従業者が第1位（34%）である（図Ⅲ-7参照）。これは西陣織物関係者に女性が多く従事していることの反映である。事業主が高い割合で西陣織物関係者にみられるのは、織元というよりも賃織業者の多さがあらわれている。

2. 仕事のしきたり

西陣織は伝統的であるがゆえに、その仕事にしきたりやきまりあると思われる。われわれは類似した他の調査のデータを持たないので、ここでは柏野学区と西陣学区を比較しながらみていきたい。

仕事に関して、昔からのしきたりやきまりを感じる程度を西陣学区と柏野学区でみると、西陣学区で感じるとする者が圧倒的に多い（柏野学区約24%に対して西陣学区約40%）（図Ⅲ-8参照）。

図Ⅲ-8 柏野・西陣別しきたり観



とりわけ、非常に強く感じるとする者は柏野学区の2倍近い（柏野学区約6%に対して西陣学区約12%）。柏野学区を全体的にみると感じるが約24%、感じないが約33%である（西陣学区約40%、約23%）。西陣学区のしきたり観の強さは一つにはその歴史という時間的な長さであり、二つには西陣学区には織元が多いという社会的分業によるものである。

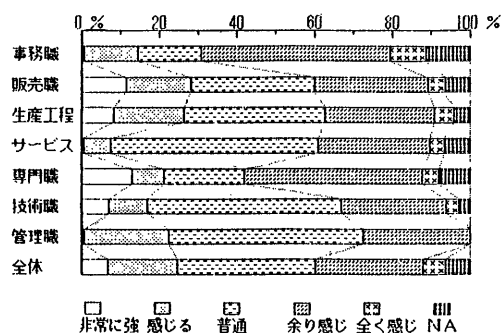
さらに、このしきたりを感じる程度を基本的な属性とクロスさせてみると以下のようなことがみられる。

1. 40歳代に非常に強く感じる者が多く（約10%）、20歳代にまったく感じない者が多い（約10%）（図Ⅲ-9参照）。

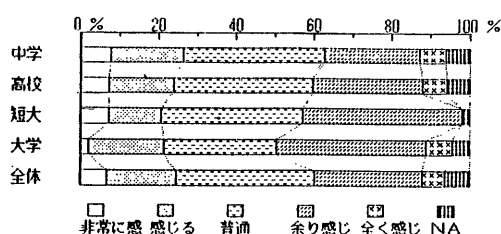
2. 高学歴の者（大学・旧制高校）にまったく感じない者が多い（約39%）（図Ⅲ-10参照）。

3. 販売職と専門職に非常に強く感じる者が多く（それぞれ約11%と約13%）、事務職にまったく感じない者が多い（約9%）（図Ⅲ-11参

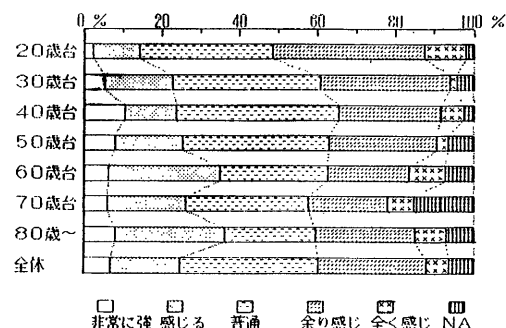
図Ⅲ-9 年齢別しきたり観



図Ⅲ-10 学歴別しきたり観



図Ⅲ-11 職業別しきたり観

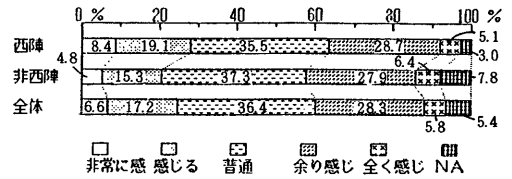


照)。また事務職，サービス職，管理職には非常に強く感じるとする者がまったくない。このうち管理職はまったく感じないとする者もゼロであるといった結果がみられる。

西陣織物関係者，西陣非関係者の両者とも感じないとする者が同じ割合で存在するが（34％），西陣織物関係者は西陣非関係者と較べてしきたりを感じるとする者が多い（27％対20％），そのなかでも非常に強く感じるとするのは西陣非関係者の5％に対して8％である（図Ⅲ-12参照）。

したがって，仕事に関するしきたりに特殊西陣的なものをみることができる。もちろん京都という地域社会がもつ文化や個人の属性などといった要素が仕事のしきたり観に影響を及ぼしていることもある。

図Ⅲ-12 西陣・非西陣別しきたり観



また，どのような状況でしきたりを感じるかを全体でみると，第一位は同業仲間であり（35％以下），取引関係（34％），同じ職場のなか（25％）と続く。

そのうち，西陣織物関係者は取引関係が第一位の38％であり（西陣非関係者は29％），西陣非関係者は同業仲間が39％で第一位となっている（西陣織物関係者は33％）。

（星 明）